

兵法經營

15, 12, 08

講演内容

① 「遊撃戦論」と
「ランチェスター」で
読み解く桶狭間合戦

② 「兵法」と「経営」

第一話

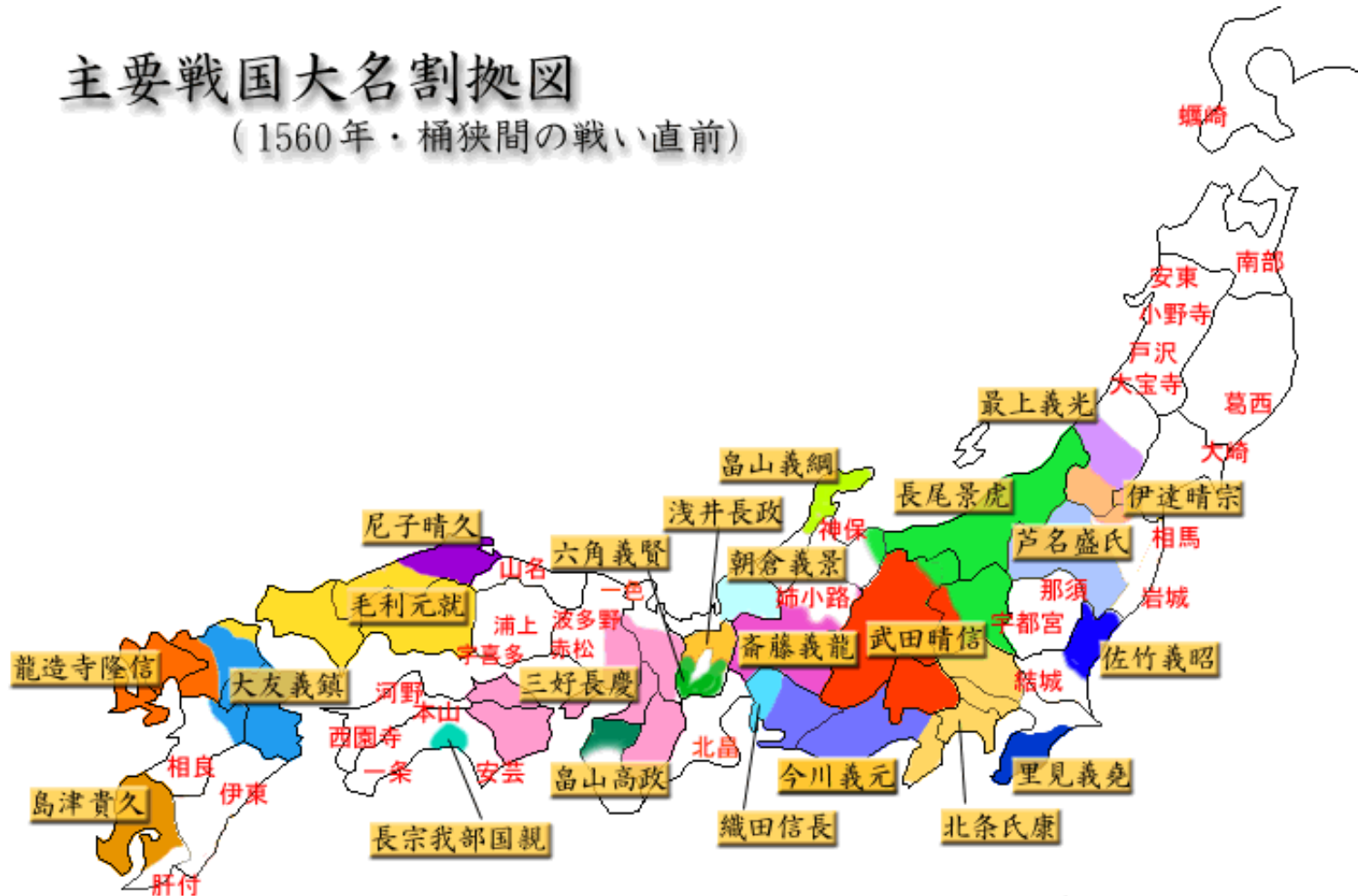
「遊撃戦論」と「ランチェスター」
で読み解く

桶狭間合戦

当時(1560年)の情勢

主要戦国大名割拠図

(1560年・桶狭間の戦い直前)



戦国時代

- **15世紀末から16世紀末**にかけて**戦乱が頻発**した時代区分(**異常気象**(寒冷期)引き金)
- 乱世により**室町幕府の権力**は完全に**失墜**
- 守護大名に代わって全国各地に**戦国大名**と呼ばれる勢力が**出現**
- 領国内の土地や人を一円支配する傾向を強めるとともに、**領土拡大**のため**他の大名と戦闘**を行うようになった

戦国大名の本質

- 戦国大名は「**軍事政権**」
- **強力な軍隊**が政権の**拠り所**
- **軍隊は非生産的組織⇒膨大な食料物資消費**
- 領国外に侵攻して**資源を略奪(8～10月)⇒止むことない対外侵攻 ⇒ 海・山賊と同じ**
- 保身的手段：**軍事(戦争)**と**外交(政略結婚)**
- **城郭⇒軍事拠点・・・今日、アメリカにとってのハワイ、グアム、日本、フィリピンと同じ**

戦国時代の戦いの様子

全国高校野球選手権大会に似ている

- **野球**：地方予選⇒全国大会
準決勝（４）⇒決勝（２）
⇒優勝（１）
- **戦争**：**信長** ⇒ **秀吉** ⇒ **家康**
- 桶狭間合戦：**信長**・**秀吉**・**家康**の
「将来を開く契機」になった戦い

156年戦闘直前の状況

- 今川：駿府を本拠、**武田・北条との「甲相駿三国同盟締結」**⇒**背後安全化**
- 織田：今川の戦力の8分の1、「生き残りをかけた『**弱者の戦い**』」
- 徳川：今川の「**植民地**」、今川軍の「**弾除け**」、「**槍先**」⇒**典型的弱小国の悲哀**

合戦発生の原因

- 今川義元の上洛
永禄3年(1560年)6月5日進撃開始
兵力:約2万5千
- 織田信長の対抗(**籠城せず、スピード攻撃**)
兵力:約3千
対今川選択肢:**降伏**、**籠城**、**決戦** (**攻撃**)
決心:国境付近で**スピード攻撃**

織田・今川軍 の戦力比較

織田・今川軍の戦力比較

- 織田軍：3千
- 今川軍：2万五千
- 相対戦闘力：1対8

桶狭間合戦の 戦術上の区分

戦術上の区分

- 戦術上の区分：遭遇戦
- 織田軍：清洲を出て東進
- 今川軍：駿府を出て西進
- 織田・今川領境界（鳴海・丹下・善照寺・鷺津・丸根・大高砦）付近で遭遇（衝突）

遭遇戦とは

- 遭遇戦は、敵と我が部隊が相互に対進することによって**出合い頭に発生する戦闘**
- 遭遇戦は各部隊が全体として運動中であるために戦闘の経過は極めて**流動的**
- 遭遇戦を戦うための最も重要な戦いの原則とは「**主導の原則**」
- 全く予想していない時期・場所の遭遇戦（不期遭遇戦）においては、**敵情を把握**し、上級指揮官からの命令を待つのではなく、任務と状況を総合的に判断して各級の指揮官は**自主的に**戦闘に移らなければならない

陸自教範「野外令」の記述

- **遭遇戦の要訣は、先制**にある。
- このため、**早期に情報を獲得して主導的に戦場を決定し、速やかに戦闘準備を整え、戦場を支配する緊要地形を占領して有利な態勢を占めるとともに、組織的な先制火力と迅速な機動により、戦闘の初動から戦勢を支配することが極めて重要である。**

織田・今川の 戦略目標

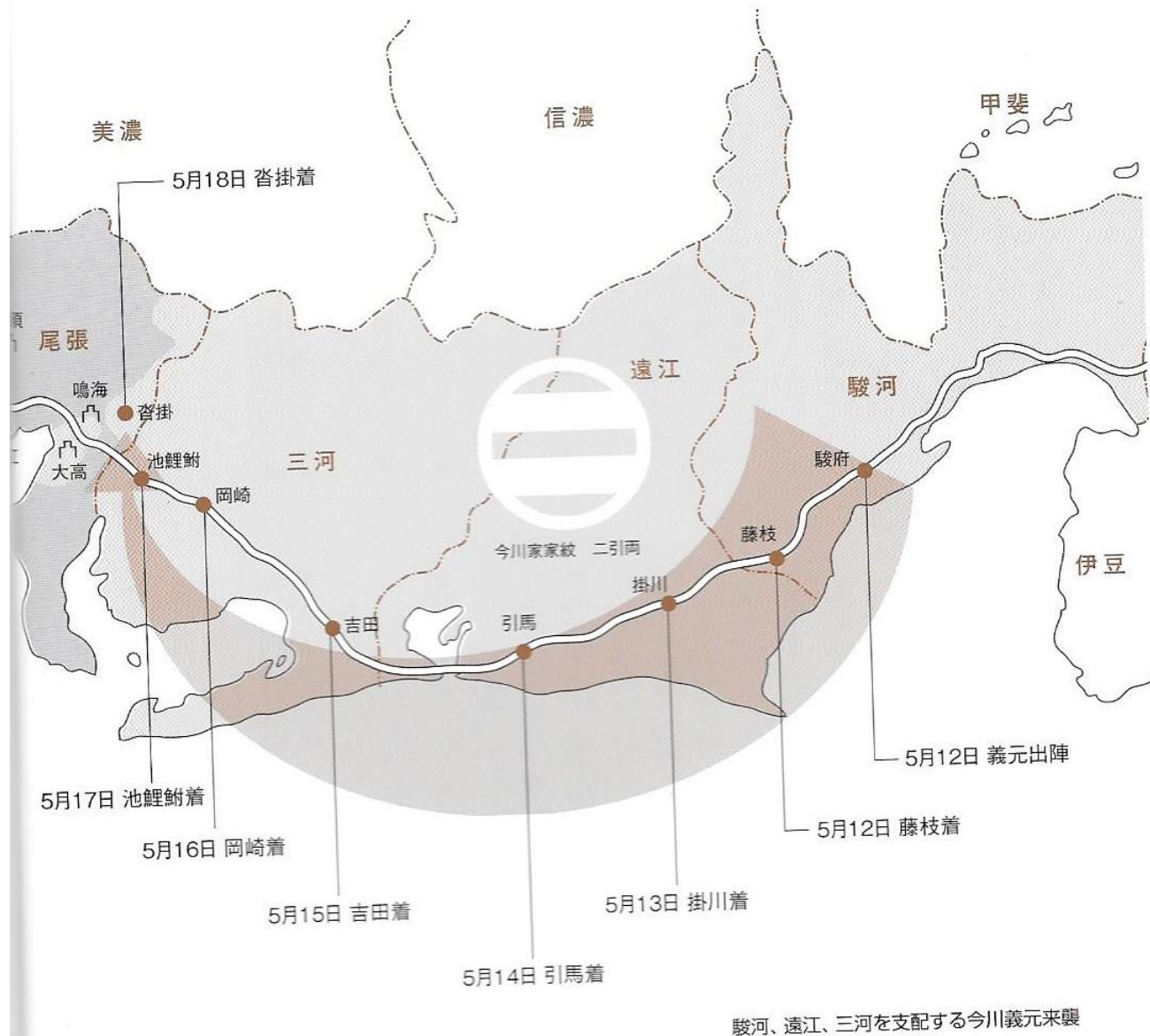
織田軍の戦略目標

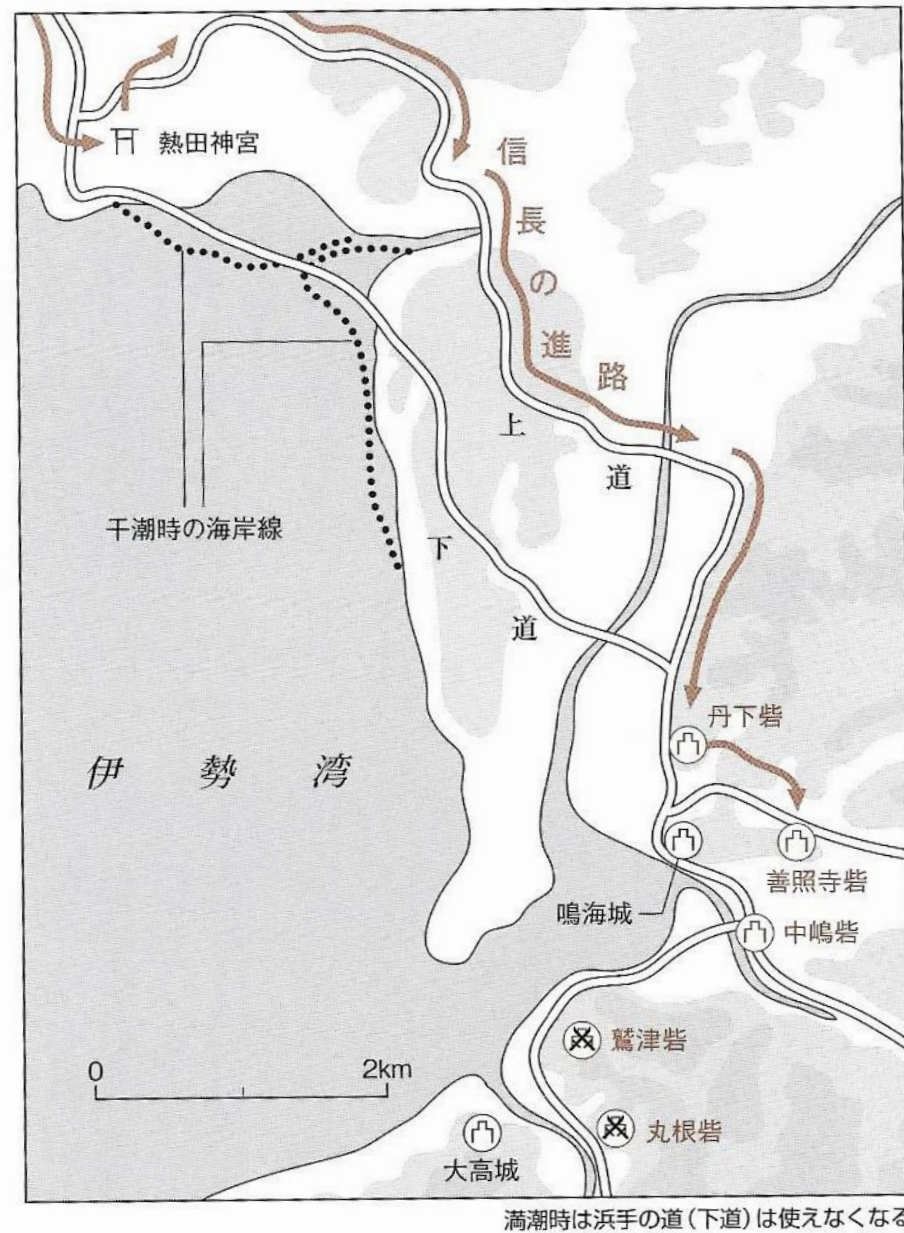
- 甲案：今川軍を**国境付近で阻止**
(必ず達成すべき目標)
- 乙案：今川軍の**殲滅**
(ベストの目標)

今川軍の戦略目標

- 甲案：上洛・・・途上に織田を**殲滅**
(ベストの目標)
- 乙案：織田・今川(徳川)**境界の切り取り (領地拡張)**
(必ず達成すべき目標)

戦闘の推移





本拠地との距離

織田軍

今川軍

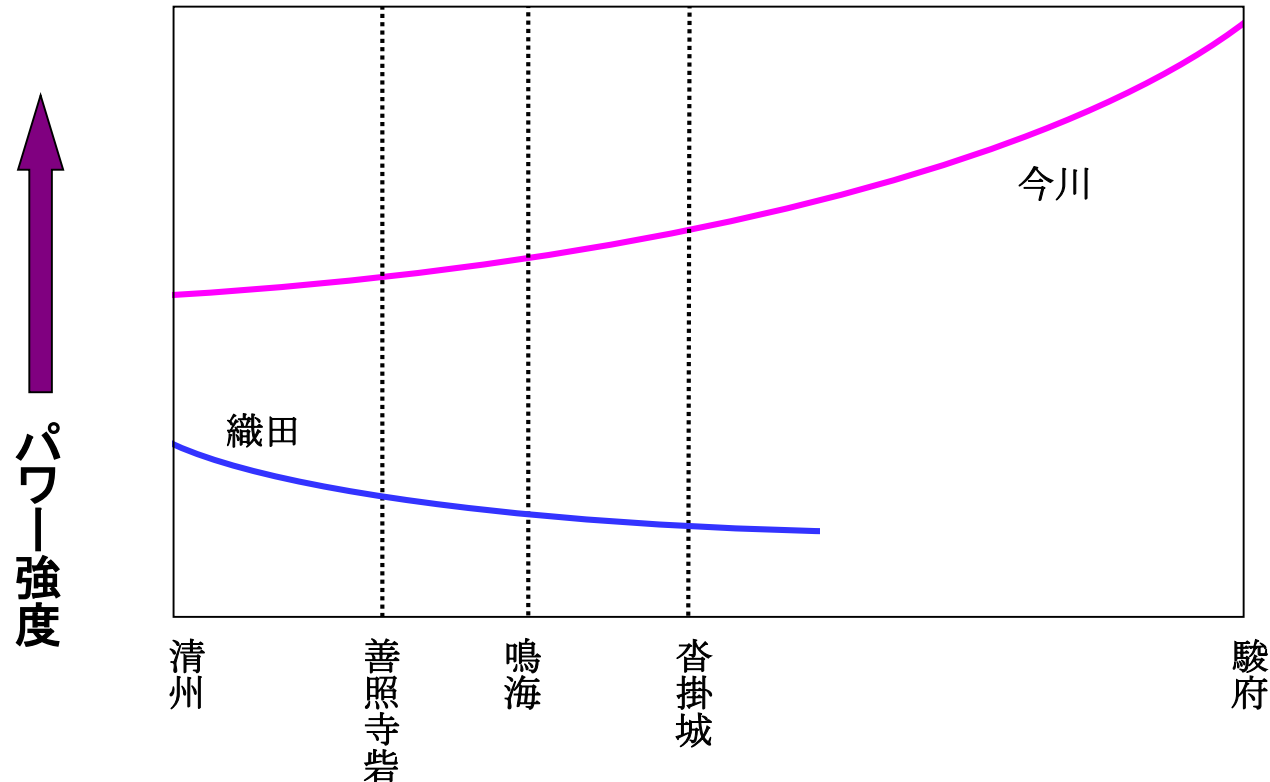
清洲⇒鳴海

駿府⇒鳴海

約 22 km

約 160 km

本拠地から離れることによる 戦力低下のイメージ



**Kenneth.Boulding提唱
「強度喪失勾配」の法則**

戦鬪の推移



進軍ルート(想定)

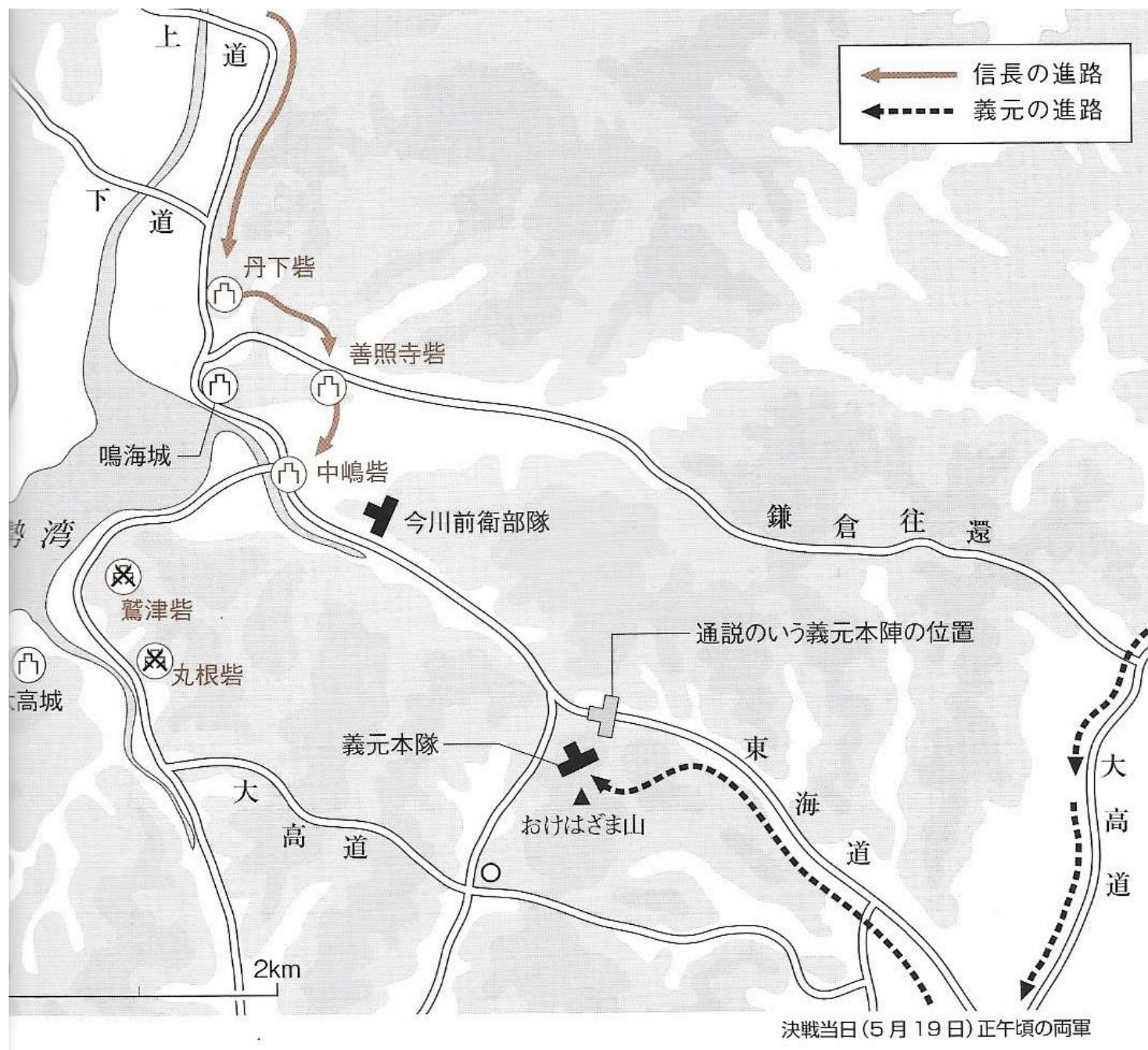
【凡例】

- 織田方の城・砦
- 今川方の城・砦
- 所属不明の城・砦
- 当時の推定海岸線
- 織田信長の進軍ルート
- 今川義元の進軍ルート

豊明市ホームページより



信長は5つの砦を築いて鳴海城を孤立させた



「遊撃戦論」とは

「遊撃戦論」とは

- ・ 毛沢東が書いたゲリラ戦理論書

- ※ 「抗日遊撃戦の戦略的問題」

- ・ 基本命題

「いかにすれば、弱者（中共）が
強者（日本）に勝てるか」

現状分析(中共の強さと日本の弱さ)

中 共

- 弱い大きな国
- 遊撃戦活用の好機
- 持久戦
- 国際的な支援

日 本

- 強い小さな国
- 広大な中国では兵力不足 ⇒ 占領地に多くの空白地帯が生ずる(弱点)
- 外国での作戦
- 戦争長期化⇒限界
- 国際的孤立

毛沢東の対日戦略構想

- 対日戦争は『**持久戦**(※)』で

※持久戦の特徴は自己の戦鬪力を維持するために**決戦を回避・延期**するという劣勢側の優勢側に対する作戦。他正面の作戦を支援する作戦である場合や、**時間的猶予**を得るための作戦。

- **正規戦**と**遊撃戦**の併用
- **国共**合作
- **米・英・ソ連**の**対日戦勝**に期待

毛沢東の遊撃戦論から学ぶこと

経営者は、

- 自身の**強点・弱点**
- 自社の置かれた**環境**（マクロ・ミクロ）
- **競合相手の強点・弱点**
- **協力企業**などの現状分析（マクロ・ミクロ）

などを**客観的、精緻に分析し、それに立脚して「弱者が強者に勝つための戦略・戦術を企画・立案・実行しなければならない**

ランチエスターの法則

ランチェスターの法則とは

- ・ 1914年にランチェスター(WWI時、飛行機開発に従事)が発表した**戦闘の数理モデル**
- ・ 「ラ」は、戦争を、初めて定量的、統計的、数学的に取り扱った理論
- ・ 「ラ」には、「**一次方程式**」と「**二次方程式**」の戦闘モデルがある
- ・ **マーケティング戦略**(売れる仕組み作り)としても発展(故・田岡信夫氏)

「一次方程式」 戦闘モデル

- $A_0 - A_t = E(B_0 - Bt)$
- A_0 はA軍の初期の兵員数
- A_t はt時間後のA軍の残存兵員数
- B_0 はB軍の初期の兵員数
- Bt はt時間のB軍の残存兵員数
- E は武器性能比(Exchange Rate)=(B軍の武器性能)÷(A軍の武器性能)
- (軍の戦闘力)=(武器性能)×(兵員数)

「二次方程式」 戦闘モデル

- $A_0^2 - A_t^2 = E(B_0^2 - B_t^2)$
- (軍の戦闘力)=(武器性能) × (兵員数)²

「一次」と「二次」の違い

- **一次方程式：一騎打ちの法則**

- 我5対敵3の場合⇒敵全滅時、
⇒ 我2残存

- **二次方程式：集中効果の法則**

- 我5対敵3の場合⇒ $5^2 - 3^2 = 25 - 9 = 16$

- 敵が全滅しても我は、 $\sqrt{16} = 4$ 残存

ランチェスターで 読み解く桶狭間合戦

強者と弱者の五大戦法

弱者

- ゲリラ戦
- 一点集中
- 局地戦
- 接近戦
- 一騎討ち戦
- 陽動作戦

強者

- 物量作戦
- 総合戦(物量戦)
- 広域戦
- 遠隔戦
- 確率戦
- 正面突破

基本戦略

- 信長は「弱者」

兵力：3000人

- 差別化戦略・ゲリラ戦

- ※ ① 小さくても一つずつ着実に勝つ
- ② 闇雲に資本を消耗させない

- 義元は「強者」

兵力：2万5千人

- ミート（同質化）戦略

- ※ ① 全方位で戦う
- ② 資本を武器にスピードで勝負

主義（商品戦略）

- 信長

- 一点集中

※ 標的・商戦分野を一つに集中させる
商品・地域・顧客ナンバーワンの追求

- 義元

- 総合戦（物量戦）

※全ての分野で総攻撃

ナンバーワン戦略

商品ナンバーワン

- パソコン売り上げNo.1
- 液晶技術No.1
- ある素材の技術No.1

地域ナンバーワン

- 同一営業圏内の同業種で売り上げNo.1
- 特定地域で最も信頼される企業になる
- その地域になくてはならない存在になる

地域戦略

- 信長

- 義元

- 局地戦

※ 限られた地域・範囲
で戦う

- 広域戦

※ 広い場所、広範囲で
戦う

流通戦略

- 信長

- 義元

- 接近戦

※ 顧客と対面して商う
(顧客の顔を見ながら)

- 遠隔戦

※ 全国の代理店を本社で統括

顧客戦略

- 信長

- 義元

- 一騎討ち戦

- 確率戦

※ 1対1で商売・戦う

※ 何人かに一人が買えばいい、テレビCMなど

戦法

- 信長

- 義元

- 陽動作戦

- 正面突破

※ 手の内を見せず、ニセ情報で揺さぶり、神出鬼没の戦い

※ 正々堂々と正攻法で攻める

第二話

「兵法」と「経営」

**兵法は何故経営に
役立つのか**

作戦要務令・綱領

- **軍**の主とする所は**戦闘**なり。故に百事皆**戦闘**をもって基準とすべし。**戦闘**一般の**目的**は、**敵を圧倒殲滅**して、迅速に**戦勝**を**獲得**するに在り。
- **会社**の主とするところは**商売**なり。故に百事皆**商売**をもって基準とすべし。**経営**一般の**目的**は、**競合他社を圧倒、マーケットから殲滅**して、迅速に**利益**を**獲得**するに在り。

兵法は何故経営に約立つのか

- **経営競争は戦争・戦闘の一形態**
⇒ **「商戦」**
- **膨大な血**で贖われた戦史から抽出された教訓（統率・戦略・戦術など）は、経営にも活用できる⇒⇒⇒ **「戦いの原則」**
- **社長**は一国の**宰相**であり、**軍司令官**（☆☆☆☆）でもある
- 会社の浮沈は、一国の盛衰に似ている・
… **経営者の能力**が大きく物を言う

戦いの原則（戦史から帰納抽出）

- **目標**: 決定的意義を有する目標の確立
- **主導**: 主動権を保持して戦勢を支配
- **集中**: 総合戦闘力を緊要な時期場所に集中
- **経済**: 決勝点以外の戦闘力は必要最小限に
- **統一**: 一人の指揮官に必要な権限を
- **機動**: 戦闘力を集中のためにきわめて重要
- **奇襲**: 敵の意表に出て対応のいとまを与えず
- **簡明**: 錯誤混乱回避のため作戦は簡明に
- **保全**: 敵の脅威から部隊を防護し行動の自由を確保、情報と警戒が基本手段

戦いの原則は狼の鹿狩に似ている

- **目標**: 群れの中から**一匹の獲物を特定**する
- **主導**: **狼が主動権を保持**して獲物を追い詰める
- **集中**: 狼の群れの総力を**一匹の獲物に集中**
- **経済**: **獲物意外には目もくれず**
- **統一**: **狼のリーダーに全て従う**
- **機動**: **全力疾走**
- **奇襲**: **藪の中から奇襲**し、鹿を**パニック**に陥らせる
- **簡明**: 狩は「**鹿を噛み殺す**」という**単純明快**なもの
- **保全**: **熊**などから**獲物を横取り**されない工夫

日本⇒戦略・戦術の低開発国

- 日本は敗戦で戦争に関する研究・活用までも放棄
- 欧米は戦争文化の国
 - －ITなど最先端軍事／ウハウの活用（軍・産・学一体化）
 - －軍人の採用・活用
 - －国家インテリジェンスの民活

「戦略・戦術」による優位性の獲得

- 日本において戦略・戦術を駆使できる能力を持つ社長は**稀**
- これを身につければ、国内のライバル他社長には無い「**アーロンの花
咲く魔法の杖**」を持つ**優位性**

**経営者（社長）は指揮官（軍
司令官＝将軍）である**

指揮官とは？（作戦要務令・綱領）

指揮官は、**軍隊指揮の中枢**にして、**団結の核心**なり。故に常時**強き責任感**と**意志**とをもつて、その職責を遂行すると共に、高き**徳性**を備え、**部下と苦楽をともにし**、率先躬行、軍隊の儀表としてその尊信をうけ、剣電弾雨の間に立ち、勇猛沈着、**部下をして仰ぎて富岳の重きを感じしめざるべからず**。

※ 儀表：模範

孫子の「将たる者」

- **智**：状況を読む力、あるいは先見力
- **信**：ウソをつかない、約束を守る
- **仁**：思いやり・・・部下を心服させる
- **勇**：勇気、決断力
- **嚴**：信賞必罰・・・「泣いて馬謖を斬る」

指揮官・社長の究極の責務

- ・ **指揮官**

戦いで「**勝利し**」、「**国民の生命財産を守る**」こと・・・**屍山をなす**

- ・ **社長**

会社経営（人（組織）・金・物）で「**儲け**」、社員を「**食わせる**」こと・・・**社員家族が路頭に迷う**

指揮官・社長の資質

- 最重要資質は「責任感」

勇怯の差は小なり

責任感の差は大なり

(戦陣訓)

- 社長の責任観念は、会社の運命を決する

指揮官・社長の**最重要職責**

- ・ 指揮官・社長は ⇒ 「**状況判断・決心**」の機関

※ 軍では「**遲疑逡巡**」する指揮官は**落第**

- ① **なさざると遲疑する**とは、指揮官のもっとも戒むべきところとす。（作戦要務令）
- ② じっくり考えろ。しかし、行動する時が来たなら、考えるのをやめて、進め。（ナポレオン）

指揮官・社長の器

- **哲学・宗教・信念**の人：(マックス・ウエーバー：**カルヴァン派の予定説**が**資本主義を発達**させた)
- **運**が強い・・・東郷平八郎
連合艦隊司令長官交代を明治天皇に推挙した際、山本海軍大臣は「東郷は運の強い男です」と答えた逸話
- **ピンチ・逆境に強い**
- “**太陽**”のような人・・・人を惹きつけ、人が生き生きと力いっぱい働ける雰囲気を作れる人

陸自教範「野外令」等に見る 統率（指揮・統御）

戦闘・経営における 「統率」の重要性

- ・ 戦闘・経営の成否は統率（人・組織の運用）が左右する

D・カーネギー「人を動かす」

- ・ ナポレオン・ボナパルト

一頭の狼に率いられた百頭の羊の群れは、一頭の羊に率いられた百頭の狼の群れにまさる

統率 = 会社経営

- **統率**は、指揮官が、**任務達成のため指揮下部隊を統べ率いていく総合的な行為**である。
- すなわち、指揮官が、**指揮下部隊及び隊員を育成**し、事に臨んで、その**総力を結集・発揮**させることである。
- **統率**は、**指揮**を基本とし、**統御**及び**管理**を総合した形において発揮される。

指揮と指揮権

- 指揮は、指揮官が**指揮権**に基づき、部隊又は個人に対して意志を表示し、その**意志に従わせる**ことであり、指揮権は、任務を遂行するため指揮官に与えられた**固有の権限**である。
- 指揮官は、その任務を遂行するため指揮権を行使して指揮下部隊を運用し、その**権限に相応する責任を負う**。
- 権限は、**委任できる**が、それによって**責任を免れるものではない**。

指揮の実行

- 指揮官は、**任務**に基づき**継続的に状況判断**を行い、**適時適切な決心**の下、**諸計画を策定し、命令を下達**して、その**実行を監督**する。
- この際、常に**大局を洞察し、最も重要な局面に努力を集中して、効果的な指揮の実行**を図ることが重要である。
- 特に、複雑多岐かつ広域・流動・迅速化する現代戦において、指揮官の迅速・的確な指揮の実行は極めて重要である。このため、**C4Iシステムを十分に活用**することが必要である。

指揮官の責任

- 指揮官は、部隊の行動について**全責任を負う**。
- **任務の完遂**は、指揮官の**至上最高の責任**である。
- **適時適切な決心と的確な指揮**は、任務完遂のための不可欠の要件である。

指揮の要訣

- 指揮の要訣は、**指揮下部隊を確実に掌握し、明確な企図の下に適時適切な命令**を与えてその行動を律し、もって**指揮下部隊をしてその任務達成にまい進させる**にある。
- この際、指揮下部隊に対する統制を必要最小限にし、**自主裁量の余地**を与えることに留意しなければならない。
- 指揮下部隊の掌握を確実にするため、**良好な統御、確実な現況の把握及び実行の監督**は、特に重要である。

統 御

- 良好な統御は、部隊及び隊員をして**上下一体**となつて、その**任務を忠実かつ積極的に遂行**し得るよう**感化を与え**、その能力を**最高度に発揮**させる。
- 指揮官は、**良好な統御を基盤**として**効果的に指揮権**を行使し、**任務の完遂**を図らなければならない。

統御は「**雪だるま**」の如し

- 統御力は**成功によって強化**される
負ければ、統御は**崩壊** ⇒ 武田勝頼の例

信玄亡き後、庶子「勝頼」が世襲
政権基盤強化のために「勝利」を急ぐ
長篠の戦で信長・家康に完敗

- **金正恩**の統御・権威強化策？

- ① 韓国哨戒艇沈没事件 (2010年3月26日)
- ② 延坪島 (ヨンビョンド) 砲撃 (2010年12月4日)

指揮官の位置

- 作戦・戦闘間、指揮官は、**部隊の指揮が最も容易な地点に位置**する。このため、通常、指揮所において指揮するが、必要に応じて緊要な地点に進出する。
- 指揮官は、その位置を移動するに当たり、常に**指揮所との連絡を確保**するとともに、指揮所における**業務の中断を防止**する処置を講じなければならない。

指揮系統の厳守

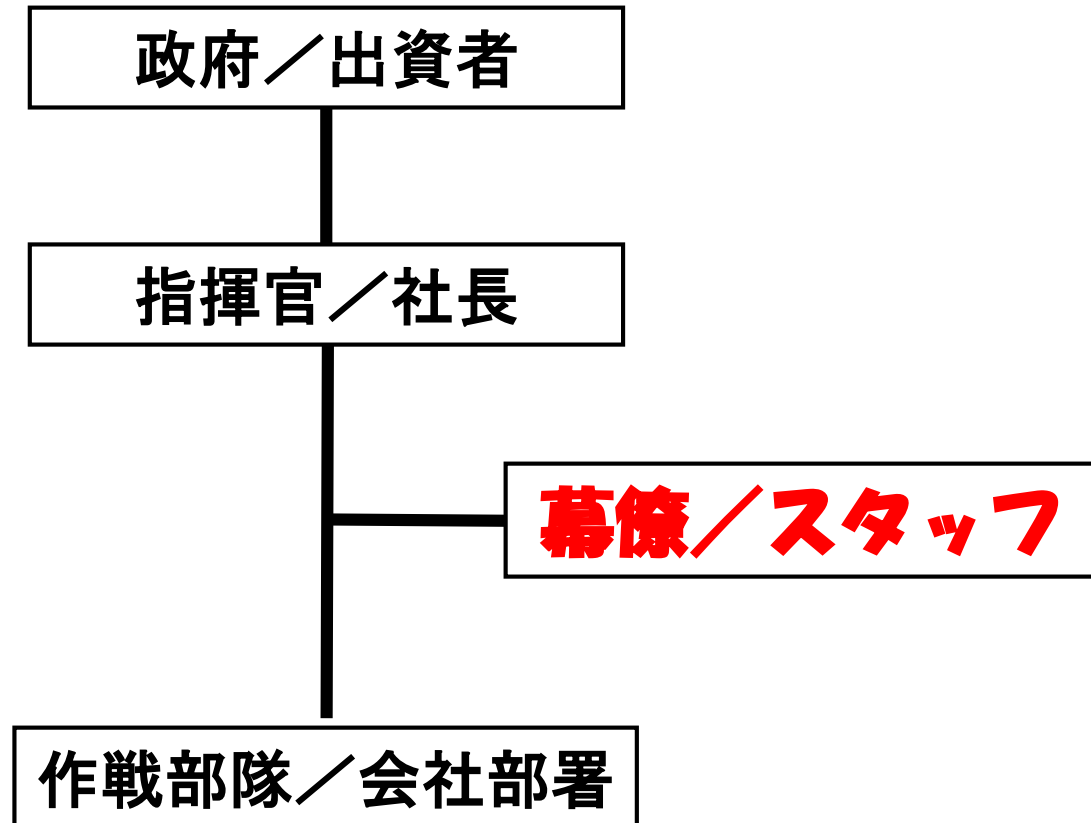
- 指揮系統を確立し、常に**指揮権の所在を明確**にすることは、作戦・戦闘行動の統一を図る根本である。
- 指揮系統を異にする部隊を同一目的に向かって行動させる場合に、これを一指揮下に統一するか、または、相互の協同連携に任せるかは状況によるが、**戦闘**に当たっては、通常、**一指揮下に統一**する。

**指揮官（社長）を補佐する
幕僚（スタッフ）**

幕僚（スタッフ）とは

- 幕僚（スタッフ）とは
指揮官を補佐するものであり、その
活動の根源は指揮官にある。
※石田光成の例
- 幕僚は
部隊を指揮する権限を持たない。

幕僚の地位

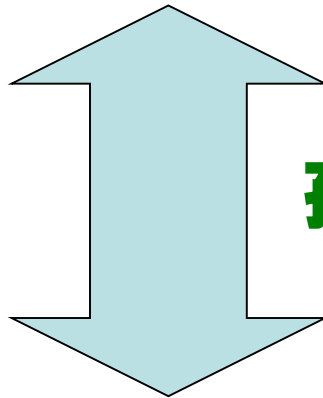


兵法を如何に学ぶか

如何に学び、身に付けるか

- 追体験・・・戦史・戦記物読破・・・①

ナポレオン



孫正義(孫の二乗の兵法)

- OJT・・・常に①と対比して省察、これを自分のもの(資質)として次回の事態に生かす

軍事と情報

情報センス

- 軍と情報：孫子「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」
- 情報を制するものは世界を制する：「日本はアメリカを“望遠鏡”で、アメリカは日本を“電子顕微鏡と内視鏡”で見ている」
- ビル・ゲーツ：「情報は会社の“血液”である」

指揮官の「指揮手順」とは

指揮手順

- 指揮手順第一：**任務受領—任務分析**
- 指揮手順第二：**状況判断**
- 指揮手順第三：**決心**
- 指揮手順第四：**計画立案**
- 指揮手順第五：**命令**
- 指揮手順第六：**実行の監督**

「状況判断」 とは何か

状況判断の意義

指揮官が任務達成のため、
最良の行動方針を決定する。

「状況判断」 誕生の経緯

「状況判断」誕生の経緯

- 古来**名将**には**固有の「状況判断」**あり
- 「状況判断」は、**米軍で開発**されたもの
- WWⅡ時、米陸軍は16万人から400万人に
- 動員された“**インスタント将校**”に先ず教えなければならないのは「**自分が置かれた状況(敵・味方・地形)の中で、上官から与えられた任務を達成するためにはどんな思考方法で行動方針を案出するか**」
- 米軍は**学者を総動員し、ノウハウを研究、マニュアル化**

「状況判断」 やり方

「状況判断」のやり方

- ① 任務を分析して目標を確立
- ② 作戦・行動する場（戦場）の特性の把握
- ③ 敵の可能行動の予測
- ④ 我が行動方針の列挙
- ⑤ 各行動方針の分析・比較
- ⑥ 結論（1H5W）

① 「任務分析」

任務分析の目的

任務を分析して、**具体的に達成**すべき
目標とその目的を明らかにする。

- 任務とは、特定の目標を達成するために、**指揮官から付与された責務**をいう。
- **任務分析**は**思考・行動の出発点**であり、全ての行動決定・実行にあたり**第一に考えるべき事**

任務分析

- 1 任務 上級部隊から「任務」として示される
- 2 地位 部隊はどのような立場にあるか
- 3 役割 どのようなことを期待されているのか
- 4 具体的に達成すべき目標
 - (1) 必ず達成しなければならない目標
 - (2) 達成することが望ましい目標そのため、何をどの程度なすべきか

② 「行動する場の把握」

行動する場の特性の把握

目標



行動する場の特性を把握

全体像を把握

地形

気象・海象



彼我の作戦への影響を考察

範囲と焦点

山岳地域

田園地域

海岸・海上地域

海中

空域

③ 「敵の行動の予測」

敵の行動の予測

敵の実態を知る

収集すべき情報

- ・ 兵力
- ・ 部隊の種類
- ・ 兵器の状況
- ・ 配置
- ・ 活動状況
- ・ 指揮官の性格、弱点
- ・ 敵の戦術、戦法
- ・ 戦い方の傾向

敵の「策」を予測

A案

B案

C案

…可能性は低いが我に致命的な策【重要】

D案

可能性のないものは排除

整理・統合

A'案

敵の可能行動の予測の「結論」

- ・ 敵の可能行動の採用公算の順位
- ・ 我が任務の達成に重大な影響を及ぼす敵の可能行動
- ・ 我の乗じ得る敵の弱点

④我が行動方針の列挙

我が行動方針の列挙

- **行動方針の検討**に当たっては、**地域の特性**、**敵情**及び**我が状況**、**相対戦闘力**並びに**敵の可能行動**を把握して考察を加え
- **任務達成のため実行可能な我が行動方針を列挙**して、各行動方針の分析・比較を容易にする

⑤各行動方針の分析・比較

私の行動の比較・検討

私の行動(作戦)を検討

確実に任務が達成できる策

... Low risk, Low return

権謀術数、秘策、奇策 etc.

... High risk, High return

案①

案②

案③

案④

案①'

可能性のないものは排除

整理・統合



行動する場の特性

敵の可能行動の予測

味方の兵力や装備等

確実に任務が達成できる策

案①

案②

敵の予想行動と組み合わせて
シミュレーションを行い最良の
案を選定

⑥結論

私の行動の決定

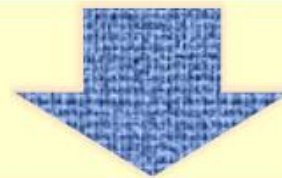
シミュレーション

決心(陸自)

判決(海自)

決心(空自)

		敵の行動			分析			結論
		A案	B案	C案	利点	欠点	処置	【決心】
私の行動	案①	○	◎	△	地形有利	火力制限	困難	×
	案②	◎	○	△	火力有利	行動制限	地形工事	○



「懸念事項や不安材料」(＝欠点)について対策(＝処置)を講じる



作戦
計画
作成

命令
の
作成

命令
実行
下達

実行
の
監督



任務達成

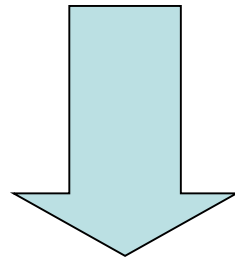
まとめ

地下鉄サリン事件で学んだ事

知識は力なり

戦史の教訓

関東大震災で**パニック状態**の都民を落ち着かせるために、**騎馬隊**を目抜き通りを行進



私の決心:速やかに部隊を現場に出す(**軍旗を起てる**)

心の持ちようで事態は変わる

- サリン事件時、緊迫した中、笑顔を絶やさず、ゆったりと振舞うことに徹した
- 大山巖大將の場合

戦争中の有名なエピソード：ロシア軍の猛攻に、日本軍は総崩れになる危機に陥っていた。総司令部は状況把握ができず、指揮系統が混乱しパニック状態にあった。その様なとき、総司令官の大山巖が寢間着姿で現れ、今、昼寝からさめたような寝ぼけた声で「**さっきから大砲の音がしちょりますが、今日はどこぞで、戦でござるか**」と尋ねた。一瞬間があり、やがて、司令部全体が**大笑い**した。**冷静さを取り戻した参謀たちは、的確な判断を下すようになり、日本軍は盛り返した。**

究極の信念の基盤

- 人事を尽くして**天命を待つ**
- 「除染作戦」を完遂できたのは、部下と私の力というよりも、**見えない「天の力」が働いた**としか思えない
- 指揮官・社長は、「**人智を超えた「天の力」の存在**」を大悟すべきだと思う
- 指揮官・社長は「**究極の信念の基盤（哲学や宗教など）**」を自ら確立すべき